

# 名誉会員 猪瀬 博 博士を偲ぶ

浅野 正一郎

国立情報学研究所 研究主幹・教授

国立情報学研究所長の猪瀬 博先生は、平成12年10月11日急逝されました。享年73歳でした。

猪瀬 博先生は昭和2年東京に生まれ、昭和23年3月東京大学第二工学部をご卒業後、東京大学大学院特別研究生として研鑽を積み、東京芝浦電気株式会社を経て、昭和31年東京大学工学部助教授となられ、昭和36年同教授、昭和52年同大学大型計算機センター長、昭和61年同大学工学部長、昭和62年学術情報センター所長を務められ、平成12年4月に学術情報センターを改組し創設した国立情報学研究所長に就任されていた。

先生は永年にわたって、電子工学、電子系統工学、情報システム工学の教育と研究にあたられ、多くの工学者、研究者を育てた。先生は、昭和30年代から40年代前半には、時分割デジタル電話交換方式の開発に顕著な業績をあげられ、特に「タイムスロット入替方式」の発明は、今日隆盛をきわめているデジタル電話交換の必須不可欠な技術として高く評価されており、後年この研究によって日本学士院賞、マルコーニ国際学術賞など多数受賞されている。昭和40年代後半からは、異種コンピュータ間ネットワークの開発にあたられ、京都大学坂井利之教授（当時）とともに主導的な役割を果たされ、我が国初の広域コンピュータ・ネットワークを開発完成された。昭和50年代以降は、マルチメディア原文書データベース等に関する研究をされ、オンライン図書館や電子図書館の実現形態を提示されたが、これらの成果は、学術情報センターならびに国立情報学研究所を中核として形成される学術情報システムの基礎をなしている。

猪瀬 博先生は、さまざまな要職につかれた。学術審議会会長、産業技術審議会会長、電波管理審議会会長をはじめ、多数の審議会委員を務められている。平成11年に学術審議会がまとめた答申「科学技術創造立国を目指す我が国の学術研究の総合的推進について」の中では、「知的存在感のある国」を目指すべきことが述べられているが、これは知的・文化的科学者であられた先生が常々仰っていたことである。このように、先生のお考えを随所に取り入れられながら、公的役割を誠実に果たされた。またOECDでは、科学技術政策委員会と情報コンピュータ

通信政策委員会の議長を務められた。今日、個人情報保護やコンピュータ・セキュリティが話題になるたびにOECDガイドラインが参照されるが、これらは先生が議長としてとりまとめたものである。さらに、科学協力に関する日米委員会では日本側委員長を続けられており、研究情報の交流を促進するために、日本からの情報発信を増大することに力を注がれた。学術情報センターが保有する情報を米国で利用できるように、米国国立科学財団に回線をひき、この利用につき自ら同財団長官と折衝にあたられるなど、行動する科学者として米国から高く評価された。今日の良い日米科学交流は、先生の努力の賜物である。



このように先生には、前出に加え、ペンシルバニア大学ハロルド・ペンダー賞やIEEEアレキサンダー・グラハム・ベル・メダルという偉人に列せられる多数の受賞があるが、アムステルダム市ブラウ賞の受賞は社会に対する貢献を表したものであり、先生はこの受賞をことのほか喜ばれた。平成3年文化勲章を受章、平成8年には日本学士院会員に推挙され、まさに日本を代表する科学者であり哲学者であった。

先生は、「Festina Lente（ゆっくり急げ）」というギリシャ・ローマ時代からの寓意を込めた言葉を座右の銘とされ、奥様鞠子（まりこ）様と歌集を出版された折にもタイトルとされていた。

また、あまりに先を急ぐ学生が大学院にてじっくりと研鑽を重ねることを奨励するために、私財により奨学金を与え、銘を記したメダルを贈ることにより、人生の良き先人として導かれた。

猪瀬 博先生は、平成11年末、千代田区一ツ橋に学術総合センターを竣工し学術情報センターを移転され、平成12年4月には念願であった国立情報学研究所を創設し、情報学研究に新たな途を拓かれ、去る10月6日に同研究所創設記念式典を終えた直後、突然、逝去された。国内外から急逝を惜しみ、お人柄を敬愛する追悼が多数寄せられている。先生のご業績とともに、永くその名が称えられることを念願する。

心からご冥福をお祈り申し上げます。

## 御 略 歴

昭和 2年 1月 5日	東京市下谷区上野生まれ
23年 3月	東京大学第二工学部卒業
31年 2月	東京大学工学部助教授
36年 7月	東京大学工学部教授
49年 5月	東京大学教育用計算機センター長
52年 4月	東京大学大型計算機センター長
58年 4月	東京大学文献情報センター長
61年 4月	東京大学工学部長
62年 4月	学術情報センター所長
平成12年 4月	国立情報学研究所長
12年 10月11日	逝去 (73歳)
昭和36年 2月	情報処理学会入会 (会員番号 804)
46年 5月～48年 5月	情報処理学会理事
49年 5月～51年 5月	情報処理学会副会長
56年 5月～58年 5月	情報処理学会会長
61年 5月	情報処理学会名誉会員
受賞	昭和51年 5月 マルコーニ国際学術賞
	54年 6月 日本学士院賞
	57年 6月 IEEE国際コミュニケーション賞
	60年 11月 文化功労者顕彰
	62年 11月 C&C賞
	62年 12月 交通文化賞
	63年 3月 日本放送協会放送文化賞
平成 元年 5月	情報処理学会功績賞
	3年 11月 文化勲章
	5年 11月 ハロルド・ペンダー賞
	6年 6月 IEEEアレキサンダー・グラハム・ベル・メダル
	9年 3月 前島賞
	9年 5月 エリクソン・テレコミュニケーション・アワード
	9年 11月 ASOCIO情報技術賞
	12年 6月 IEEEサード・ミレニアム・メダル
栄誉	昭和52年 4月 全米科学アカデミー (NAS) 外国人会員
	53年 1月 IEEEフェロー
	54年 4月 アメリカ哲学協会外国人会員
	61年 5月 電気学会名誉員
	62年 5月 電子通信学会名誉員
	62年 5月 テレビジョン学会名誉会員
	63年 5月 スウェーデン王立理工学アカデミー (IVA) 外国人会員
平成 元年 3月	大英王立研究所名誉会員
	3年 5月 日本工学アカデミー副会長
	3年 7月 英国王立工学アカデミー (RAE) 外国人会員
	8年 12月 日本学士院会員